

災害に対する避難行動の社会心理学的な考察

東京都市大学 学生会員 ○三枝大祐
東京都市大学 正会員 皆川 勝

1. 目的

本研究は、東日本大震災の事例の中から人間の心理により被害が拡大したものを社会心理学を用いて考察することにより、避難行動の在り方を検討するための基礎的資料を得ることを目的とする。

2. 本研究で用いる基本概念

(1) 社会心理学における欲求¹⁾

社会心理学によれば、社会的欲求及び動機・意図が人間の行動を引き起こす。Murray は、社会的欲求を 15 に分類したが、ここではそのうち、震災と避難に直接的に影響を及ぼすと考えられる達成、追従、秩序、顕示、親和、自律、養護、他者認知、支配、救護を考察の対象とし、内罰、変化、持久、異性愛、攻撃などは対象から除外した。

(2) 社会システムに影響する人間の本能²⁾

林によれば、社会システムは人間の脳の仕組みを可視化したものであり、人間が作り出した複雑な社会システムは、脳が本来的に持っている 3 つの本能に基づく欲求を満たすように作り出されてきた。それは、生存欲求、知的欲求、集団欲求である。

一方、生まれてから成長すると共に脳も成長し、自分を守りたいという「自己保存」の本能が育つ。過剰な自己保存は、自分とのつながりを持つ周囲の人や自分自身をも傷つけることとなる。これを「自己保存の過剰反応」と呼ぶ。同時に「統一・一貫性」の本能も育ち、これはプラス面とマイナス面を持つ。プラス面は、入手した情報を統一・一貫性に照らし合わせ、正しいか否かを判断し、情報に新しい情報を加え展開させること、マイナス面は、自分と異なる意見を受け入れることができなくなり、別角度からの視点を見失い、思考の展開ができなくなることである。

本研究では、以上の生存欲求、知的欲求、集団欲求及び自己保存本能、統一・一貫性本能を考察の対象とする。

(3) 文化的背景³⁾

農耕民族である日本人は草食系であると言われる。草

食系の動物は一般に集団で敵と戦うことから、協調性が重視される。一方、狩猟民族である欧米人では肉食系と言われる。肉食系の動物は単独行動で狩りを行うため、自己主張が強くなる。その結果、日本人は集団主義的自己観あるいは相互依存的自己観に基づいて行動するのに対して、欧米人は個人主義的自己観あるいは独立的自己観に基づいて行動する傾向がある。本研究では、この自己観の相違を文化的背景にとらえ、前述の社会的欲求及び基本的な本能と関連させながら、避難行動に及ぼす影響を考察する。

3. 三軸によるグルーピング

上述した 10 の社会的欲求、5 つの基本的な本能は関連づけられる。集団主義的自己観とあわせて、本研究では、その志向性により図-1 に示すように以下のようにグルーピングする。

- 集団志向軸：集団主義的自己観、集団欲求本能、統一・一貫性本能、秩序・親和・支配・追従欲求
- 達成志向軸：自己保存本能、達成・顕示・他者認知欲求
- 自律志向軸：知的欲求本能、自律欲求

集団志向軸は、我が国の文化特有の集団主義的自己観と同じ志向性を示すもので、個よりも集団の意思を尊重

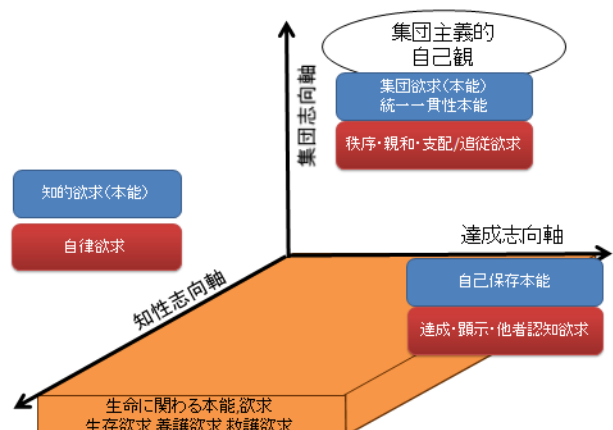


図-1 自己観・本能・欲求の志向性によるグルーピング

キーワード 避難行動、災害、社会心理学、本能、欲求

連絡先 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1 東京都市大学工学部都市工学科 TEL03-5707-2226

し、秩序や支配/追従を肯定的にみる志向性である。達成志向軸は、自己を保存し他者による認知などの達成を結果として得たいとする志向性である。自律志向軸は、様々な欲求や本能を制御し、真実の探求を自律的に進める志向性である。生死に関わる事例では生存欲求本能は根源的な本能であることから達成志向軸に含まない。Maslow の自己実現理論においても生存欲求本能は常に満たされており、次の欲求段階へ移行するとされている。

4. 保育士と親の避難行動

本研究では津波計画区域外であるために避難を開始しなかった住民の問題、避難勧告に命令調を頻繁に用いることで言葉の使い減りが生じる問題、各々が即座に避難を開始しない問題を取り扱った。今回は紙面の都合により、各々が即座に逃げない事例として保育園に子を預けている親と保育士の避難行動を考察する。

人の死を伴うような大災害時の避難行動においては自分や子供等の生命を守りたいという生存欲求本能は当然強い。一方、達成欲求等により危険を顧みず、職業の責務を果たそうとする。また、避難行動には同調性バイアスが強く働くことが知られている。そして、想定が困難である大災害においては、マニュアルは危険であり、自律的に各自が判断することが求められる。

親と保育士、保育園の関係を、前述の基本的な概念を用いて整理したものを図-2 に示す。

親は本能として生存欲求本能及び養護欲求が働くが、同時に決められている行動に対して疑わない等の集団的志向軸の欲求があり、学校保険安全法をよりどころにして、「マニュアル」的に行動するという集団・秩序・追従等の欲求や統一・一貫性の本能が働く。

保育士にも親と同様、生存欲求本能や養護、集団志向軸の諸欲求が働くが、親との基本的な相違は保育士という職業を通じた達成志向軸の欲求が強く働く点である。常に子供の命を預かっている責任があることから自己保存本能等の達成志向軸の欲求がある。保育園と子供の保護者の間には契約関係があることから、保育園の下で働いている保育士には保育園と保護者双方に対して、支配と追従の関係がある。保育士は子供を引き渡すことにより避難行動を優先するべきであると考え

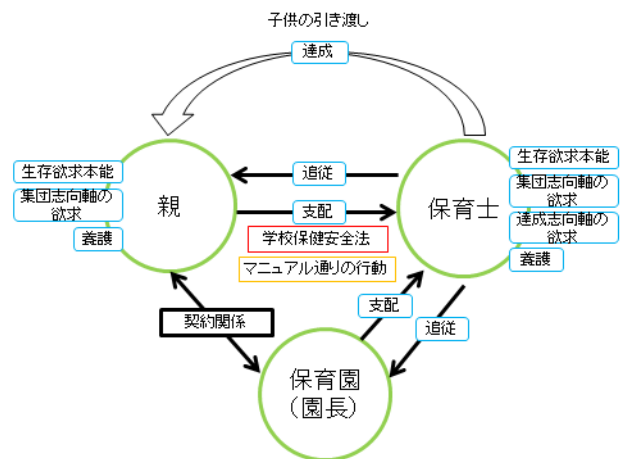


図-2 親と保育士の心理状況

ていたとしても、自己保存本能が働き、達成欲求に従って、マニュアル通りの行動をしてしまう。それはマニュアル以外の行動を行い、津波の被害にあうと後に過失致死罪などに問われることがあるためである。そうした危機により保育士はマニュアル通りに従い、保護者に子供を引き渡す行動を取るようになる。

保育士の統一・一貫性等の集団志向軸や達成志向軸から自律志向軸に近づけることが必要になる。親は自己保存本能等の達成志向軸から自律志向軸に近づけることでより被害を小さくできる。具体的に自律した行動が自然ととれるような環境をどの様に整備するかが重要である。例えば、親と保育士の信頼関係の強化が挙げられる。この信頼関係が強ければ、災害時に親は保育士を信頼し、自律的に各々で逃げる事が可能になる。逆にこれが弱いと子供の安全を不安視し、今回のような事例が再発する恐れがある。

5. おわりに

人間の心理が避難行動にどの様に関わるかを分析した。今後、人間の本能や欲求を考慮した制度設計が必要である。

6. 参考文献

- 1) 内藤誼人：手にとるように社会心理学がわかる本，かんき出版，2011.5.23.
- 2) 林成之：ビジネス〈勝負脳〉，ベスト新書，2009.2.11.
- 3) 皆川勝：我が国の建設マネジメントの課題に関する社会心理学的な考察，土木学会論文集 F4 (計画マネジメント)，Vo.68, No 4, I_33-I_44，2012.